

高木市長の



しおかぜ通信

います。

7月の笠岡総合体育館の竣工式では、多くの市民の皆様と喜びを分かち合うことができ、8月にはそのこけら落としである女子全日本教員バスケットボール選手権大会を、国体のリハーサル大会と位置づけ、成功のうちに終えることができました。来年の本大会に向け、さらなるご支援を賜りたいと、お礼とお願いを申し上げます。

過ぎしやすい季節となりました。皆さんはどのような秋を迎えていらっしゃいますか。スポーツの秋、文化の秋、食欲の秋などがありますが、私は「読書の秋」で秋の夜長を過ごしたいと考えています。好きな本を読んでいると、時間が経つのも忘れ、心身ともにリフレッシュできます。

さて、今年の夏を振り返りますと、かつてない暑さと、度重なる台風の襲来がありました。市内でも高潮による浸水被害が数多く発生し、市民生活に大きな不安をもたらしたことは、行政を預かります私にとっても非常に残念な思いです。被災地が一日も早く復旧され、市民の皆様の心に明るさが戻りますよう、職員と一丸となって取り組んでま

世界に目を向けますと、オリンピック発祥の地アテネでは日本選手の大活躍により、メダル数が過去最高となるなど、大いに盛り上がりました。眠い目をこすりながらの応援となりましたが、選手各人が全力でプレーした賜物と、私も拍手を送りたいと思います。市民の皆様方には、これから朝夕めつきり涼しくなり体調も崩しやすい季節となつてまいりますが、体調管理には十分お気をつけください。私も健康管理に十分留意し、市民福祉向上のためさらに頑張つてまいります。

笠岡市長 高木 直矢

Hello, amy ハロー、エイミー



一日だけのおばあちゃん

日本の「おばあちゃん」に私はいつも驚かされます。彼女たちは話題の宝庫です。先日、私は島へ帰るフェリーで、83歳になる原田さんと一緒になりました。

「どこへ行ってきたのですか。」と尋ねると、「10日ほど福山の息子のところへね。」と答え、「都会はとても便利だね。」と言いました。「私は、もともと島の人間ではないの。」その昔、多くの女性がそうであったように、原田さんもこの島へ嫁いできたのです。

私は、原田さんにカバンを持ちましょうと声をかけましたが、おばあちゃんらしい仕

草を見せながらも、彼女はきつぱりと断りました。

「家までずっと歩いて帰るのですか。」私は尋ねました。彼女は、港の対岸にある私の家の近くに住んでいます。83歳という年齢でなければ、さほどの距離ではありません。私は、あさはかながら自分の自転車に乗るよう勧めてみました。

「いいえ、私は自転車に乗れないの。一度乗ろうとしたんだけど、主人に怒られてね。女性が自転車に乗るような時代ではなかったのよ。」私は、自転車を押しながら彼女の横を歩き、まるで異国の新天地でも見てきたかのよう

に福山のことを話し続ける彼女に、カバンを自転車かごに入れるよう促しました。ちようどそのとき、私たちのそばでは漁師さんがボートの上にお店をかまえたところでした。慣れた手つきで、ボートの端につけているネットから魚を取り出し、包丁でエラの後ろに切れ目を入れていきます。包丁からは血がしたたり、おばあちゃんたちはビニ

ール袋を手に並んでいます。公会堂を過ぎたあたりで、開いた窓から琴の音が聞こえてきます。何台かのおばあちゃんカートが入り口に並んでいます。新品のカートに乗った別のおばあちゃんが「お帰りなさい！」と声をかけ通り過ぎて行きました。

いつもなら5分の道のりですが、私たちがやつと家の近くまで来たときには、20分が経っていました。「ここいいよ。」と彼女は言い、自転車かごから自分のカバンを取ろうとしましたが、「まだまだ、家まで一緒に行きますよ。」と私は押し切りました。

私は、二人のウォーキングを楽しみました。この瞬間が今しかないものと分かっているから、私は二人の時間を宝物のように大事にしています。原田さんは、家に着くと玄関の戸を押します。彼女は、私にお礼を言い、庭で取れたタマネギを一袋くれました。しかしながら、お礼を言うべきなのは私の方でしょう。一日、私のおばあちゃんになつてくれた彼女に…。